

JMFI NEWS

【ジェイเอ็มエフアイ・ニュース】

JAPAN Material Flow Institute

No.23 (2017年7月号)

発行 ● 一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 202

TEL ● 03-3988-2671 / FAX ● 03-3980-6588

URL ● <http://www.mf-p.jp>

新規会員が順調に拡大、 6月現在で72社に

(一社)日本マテリアルフロー研究センター (JMFI) は昨年11月に設立総会を開催し、当初会員52社で本格活動を開始しました。以来半年余り、去る6月15日の理事会で新たに4社の入会が承認され、合わせて会員企

業は72社の陣容となりました(図表1)。

ご覧のように製・配・販の荷主企業から、物流と関連サービス、マテハン・ICT、不動産関連企業etc.……とサプライチェーンを構成し、関連

する広範な業種をカバーすると同時に、我が国を代表する超大手・大手から、中堅、そしてベンチャー企業まで、企業規模やスタイルもバラエティに富んだメンバーが続々と参加されています。

この会員構成は、「物流・サプライチェーンの社会的な全体最適」を掲げるJMFIならではの特徴であり、そのまま強みになることが期待できます。なぜなら、これら各層の企業からメンバーを募集し編成中のJMFI研究会では、異なる立場からの知見・意見を糾合し、集約することで、「次世代のプラットフォーム」構築に向けて、より有効な提案が可能になるからです。

7月～翌年6月を活動年度とする

図表1 (一社)日本マテリアルフロー研究センターの会員企業 (50首順, 2017年6月15日現在)

アサヒグループホールディングス(株)	シーオス(株)	日本貨物鉄道(株)
味の素物流(株)	システムズ・デザイン(株)	日本通運(株)
アマノ(株)	(株)シーネット	日本パレットレンタル(株)
イーソーコ(株)	ジック(株)	(株)パワー工業
イオングローバルSCM(株)	(株)スギヤス	(株)日立ソリューションズ東日本
伊東電機(株)	鈴与システムテクノロジー(株)	(株)日立物流
(株)イトーヨーカ堂	センコー(株)	(株)ビーリンク
上野興産(株)	全国通運(株)	富士電機(株)
SGホールディングス(株)	(株)SOUCO	プロロジス
(株)エスピーク	(株)ダイアログ	(株)丸和運輸機関
オークラ輸送機(株)	(株)ダイフク	水岩運送(株)
(株)オープンロジ	タカラ物流システム(株)	三井倉庫ロジスティクス(株)
(株)岡村製作所	(株)タクテック	三井不動産(株)
カシオ計算機(株)	(株)ディーエムエス	三菱商事(株)
(株)協和製作所	(株)デンソーウェーブ	三菱食品(株)
グローバル・ロジスティック・プロパティーズ(株)	(株)ツールマート	メイプルツリーインベストメンツ(株)
コアソリューション(株)	(株)東芝	(株)山善
鴻池運輸(株)	トヨタL&F東京(株)	ヤマトホールディングス(株)
(株)サトー	トランコム(株)	優成監査法人
三機工業(株)	(株)ナンセイ	郵船ロジスティクス(株)
山九(株)	日建リース工業(株)	(株)流通研究社
三甲(株)	日産自動車(株)	(株)ローソン
三進金属工業(株)	(株)ニトリホールディングス	(株)ワコーパレット
サンスター(株)	(株)日本アクセス	(株)をくだ屋技研

JMFIは、いよいよ7月から第3期目に入ります(設立登記は2015年12月のため)。理事会を経て8月25日には第2回総会の開催を予定していま

す。新年度の開始とともに、準備を進めていた研究会も続々と本格活動期に入る計画です。会員企業の皆様、どうかご期待ください。そして参加

研究会をまだお決めになっていない会員企業の皆様も、参加登録のうえ、ともに時代を拓く研究活動を進めてまいろうではありませんか! MF

JMFI研究会のご案内

IoT・リアルタイム見える化による シェアリング・ロジスティクス研究会

当研究会では下記のようなコンセプトと枠組みを設定し、幅広い会員メンバーに参加いただいて研究活動を始めるべく、準備会合を進めています。

《当研究会の基本コンセプト》

サプライチェーンにおける シェアリング・ ロジスティクスの プラットフォーム構築

当研究会は、製造から流通、小売店舗(量販店、専門店、コンビニ等)、さらに通販の宅配に至るサプライチェーン・ロジスティクスにおいて、輸配送、スペース、作業などのリソースや在庫を、IoT、OBD2などのデジタル技術を活用してリアルタイムに見える化し、マッチング&シェアリングすることによって社会全体の生産性を高めることを目的とします。

共通プラットフォーム構築の可能性を研究、検証しながら、実践に結びつけます。それによって社会的価値の創出を行い、さらに学術的価値と参画企業の経済的価値の創出をも目指します。

研究会の枠組み

当研究会は、以下グループの2段階で構成するものとします。

①研究会参加メンバー全員で構成する「全体グループ会議」(仮称)

下記のように本格的な研究活動にすぐには取り組みにくい会員向けに、本テーマでの情報交換、交流、学習の機会を提供する。定期的に交流会・研修会を実施し、研究分科会の中間報告なども行う。

②実証実験や事業化も想定する具体的なテーマを設定した「研究分科会」(仮称)

シェアロジ研・研究分科会のテーマ候補

①リテール物流におけるシェアリング・ロジスティクス(まず過疎地の宅配シェアリングから)

量販店、専門店、コンビニ等のリアル小売店舗を発着点とするリテール物流に焦点を当て、店舗への輸配送、店舗からのラストマイル配送について、共同化・シェアリングの可能性を探る。また「地方創生」の角度から、政府や自治体との連携を図り、「モデル地域(特区)」を選定し推進。過疎地域の高い物流コストを削減しつつ、物流サービスを維持し、「生活を守る物流」のサステナビリティを確保する。

課題抽出を経て、相乗りのための必要条件の洗い出し、プラットフォーム構築の企画策定、実証実験の実施、実行まで、フェーズを設定し段

階的に取り組む。

②宅配業務全般の共同化=シェアリング/伝票データ等の標準化

宅配需要がさらに増大することは確実視される一方、宅配機能の供給側のリソースは限られ、再配達問題もあり、現在のまま宅配各社が個別に努力する体制で需要を賄いきれるのか、大きな課題となっている。そこで宅配各社や通販荷主などにも参加いただき、他社の荷物もシームレスに他社に引き継ぎ・受け入れ=シェア可能とするための、課題の洗い出しと対応・実行を目指す。

③倉庫スペースのリアルタイムマッチングとシェアリング

現在も物流不動産関係各社が積極的に大型拠点の建設を進めているが、今後は地域によっては、スペースが供給過剰気味になる恐れが指摘され、稼働率の向上がさらに課題になるものと予測される。そこで主要な物流不動産企業と荷主・物流企業を巻き込み、倉庫・物流センターの空きリソースについて、リアルタイム見える化・共有化⇒マッチング⇒シェアリングのプラットフォーム構築を目標に、研究を行う。

研究会への参加・その他お問い合わせは……

JMFI事務局(担当・小池)まで
[TEL] 03-3988-2671
[MAIL] benkoike@ryuken-jmfi.org.jp